

●るり溪少年自然の家

前回検証結果	継 続 ・施設のアピールポイントを明確化し、利用者満足度を意識した施設の魅力づくりに取り組むこと。 ・施設の特徴を生かした営業戦略により、更なる効果的な利活用を図ること。
対応・改善策実施状況、取組の成果	○自然環境を活かし、専門性の高い職員により体験活動を指導することで、施設の魅力向上を図った。利用者ニーズや利用傾向（平日は学校団体、週末は社会教育・スポーツ団体・家族が中心）を踏まえ、体験内容の充実や情報発信、関係団体への働きかけを強化し、利用促進と満足度向上に努めた。 【体験活動の充実】 ・園部町森林組合や府立農芸高校と連携し、林業・農業体験を実施（継続） ・ふるさと丹波路、るり溪山里の駅と連携した収穫体験を実施（継続） ・京都丹波クラフト友の会と連携したクラフト指導を実施（継続） ・府立図書館と連携した学校支援セットによる環境学習事業を実施 ・南丹市中央図書館と連携した読書体験事業を実施 ・チームビルディング（2024年～） お互いを尊重し協力して課題達成に取り組む活動を提供 ・自然観察ハイキング「グリーンアドベンチャー」（2025年～） るり溪の自然をクイズ形式学べるハイキングコースを開設 ・忍術修行体験（2026年提供開始） 手裏剣打ち等の課題を通じ、仲間との協力を体験的に学ぶ活動を提供 ・幼児の自然体験（2026年提供開始） 幼稚園・保育園児を対象に五感を使って自然と触れあう体験活動を提供 【周知・利用促進】 ・西本梅地域活性化センターと連携し、体育館等の利用を斡旋（2024年～） ・府立高校・支援学校へ利用チラシを送付（2024年～）→令和7年2校が利用 ・京都府私立連合会理事会で74校（小学9校、中学24校、高校41校）へチラシを配布（2024年～） ・兵庫県・大阪府の中学・高校245校へチラシを送付（2024年～）→令和7年3校が新たに利用 ・大学（京都・兵庫・大阪）463校へチラシを送付。大学生協と提携し、サークル・ゼミ合宿を紹介するHPへ掲載を開始（2024年～）→令和6年2団体、7年3団体が新たに利用 ・関西地区の大学射撃部12校、大学吹奏楽部（京都・大阪・兵庫）55校、関西地区大学かるた連盟18校へチラシを送付（2025年～）→令和7年3団体が新たに利用 ・関西地区ボーイスカウト・ガールスカウト連盟へチラシを配布（2023年～）→令和6年10団体、7年11団体が新たに利用

なお残る課題・問題点	◆老朽化した建物・設備への計画的な対応 ◆宿泊利用者数のさらなる増加
府民サービス等改革検討委員会による改善意見等	□管理者の工夫でより良い施設となっているが、今後は収支の均衡や府民利用割合の向上について、どのようにバランスを取るかが重要と思料。 □利用促進や体験プログラムの新設等により利用者は増加傾向であり、引き続き、施設の利用向上に期待。 □代替同等施設が府内には点在しており、人口減少等を鑑みると、施設の継続性については、一度検討する必要がある。
京都府の検証結果及び対応方向	継 続 ＜改善方策＞ ◎引き続き施設の充実を図るとともに、社会情勢も踏まえながら、施設の継続性について検討を開始すること。 ＜今後の対応＞ ○利用者の満足度の向上につながるよう、指定管理団体による自主事業の充実を図る。 ○指定管理団体とも連携し、設備の状態を適切に把握し、計画的に改修が実施できるよう努めていく。 ○社会情勢も踏まえながら、施設の継続性について検討を行う。